

# 博士論文審査報告書

氏名	竹内 利光		
学位の種類	博士（心理学）		
学位記番号	院博甲第 26 号		
授与機関	東京成徳大学		
学位授与年月日	2023 年 3 月 17 日		
学位授与条件	学位規則第 5 条第 1 項		
学位論文題目	予備校生のもつビリーフとストレスに関する研究 ービリーフ尺度の作成とソーシャルサポートとの関連からー		
論文審査委員	主査	田村 節子	東京成徳大学大学院 教授
	副査	石隈 利紀	東京成徳大学大学院 教授
		井上 忠典	東京成徳大学大学院 教授
		江口めぐみ	東京成徳大学大学院 准教授

## 1. 論文概要：(1) 目的、(2) 方法、(3) 結果及び考察

本論文は、(1)予備校生のもつビリーフを明らかにして、(2)ビリーフとストレスの認知(研究1)、ストレス対処方略、ストレス反応の関連性について検討し(研究2,3,4)、(3)予備校生の受けるソーシャルサポートが、ビリーフとストレス反応の関係にどのような影響を与えるのかについて検討すること(研究5)を目的とした。

研究1では、予備校生497名を対象に予備校生ビリーフ尺度の作成および信頼性・妥当性の検証をおこなった。「周囲へのサポート要求」「受験勉強への集中」「周囲への義務感」「受験失敗への過剰な評価」の4因子からなる尺度が構成され、信頼性および一定の因子的妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性が確認された。

研究2では、予備校生764名を対象に、質問紙による調査研究を行い、予備校生ストレス尺度の作成および信頼性・妥当性の検証を行った。「学業ストレス」「親ストレス」の2因子からなる尺度が構成され、信頼性および一定の因子的妥当性・構成概念妥当性が確認された。

研究3では、予備校生764名を対象に、研究1で作成した予備校生ビリーフ尺度、研究2で作成した予備校生ストレス尺度を用いて、ストレス認知、予備校生のビリーフ、ストレス反応の関連性の検証を行った。ストレス認知、ビリーフ、ストレス認知とビリーフの交互作用を独立変数、ストレス反応を従属変数として階層的重回帰分析を行った。その結果、ビリーフがストレス認知に影響を与え、ストレス反応が強くなることが示唆された。

研究4では、予備校生764名を対象に、予備校生のビリーフ、ストレス対処方略、ストレス反応の関連性の検証を行った。予備校生ビリーフが、ストレス反応に

及ぼす影響について、ストレス対処方略が媒介しているモデルを想定して媒介分析を行った結果、ストレス対処方略の媒介効果が確認された。

研究5では、予備校生524名を対象にした質問紙による調査研究を行い、ビリーフと知覚されたソーシャルサポート、ストレス反応の関連性を検証した。ビリーフとソーシャルサポート、ビリーフとソーシャルサポートの交互作用項を独立変数、ストレス反応を従属変数として階層的重回帰分析を行った。その結果、ビリーフが弱い場合において、ソーシャルサポートがビリーフに影響を与え、ストレス反応が強くなることが示唆された。

## 2. 評 価 :

---

本論文は、予備校生のビリーフ、ストレッサーの認知、ストレス対処方略、ストレス反応、ソーシャルサポートについて、総計1,785名の予備校生を対象として、5つの調査研究を行ったものである。予備校生のビリーフがストレス反応に影響をあたえるプロセスで、ストレス対処やソーシャルサポートが媒介するモデルについてはさらなる検証が必要ではあるが、5つの調査研究は一定のレベルに達しており、総合的に優秀な博士論文と評価された。予備校生のビリーフやストレスに関する貴重な研究であり、予備校生への心理教育的援助サービスおよび心理教育に示唆を与えるものである。

## 3. 最終試験結果 :

---

2023年2月4日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

## 4. 結 論 :

---

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2022年2月17日